

## グローバル・カフェ×教育学部「ITER木村さんによる公開授業」を実施しました

2023年10月26日（木）に、教育学部、ダイバーシティ推進室との共催で「ITER木村さんによる公開授業」をワークショップ形式で実施しました。留学生9名、日本人学生14名、教職員9名、学外者1名の計33人が参加、学生間では多くの意見が交わされました。



まず木村さんの勤務先である核融合実験炉 ITER（イーター）（以下、ITER）についてご紹介いただきました。フランス南部に位置する ITER は、核融合エネルギーが技術的に成立することを実証するため、世界7極35か国が参加する地球上最大の超大型国際プロジェクトを行っています。木村さんは ITER 調達部のグループリーダーとして、資機材等の調達業務を担っています。ベルギー、ドイツ、アメリカ、フランス、モロッコ、イタリア、韓国と多国籍の同僚たちは、皆さんとても仲がいいとのことで、グループ全員でランチを食べている写真を交えながら紹介してくれました。

続けて、木村さんのお子さんが通う「PACA マノスク国際学校」についての説明がありました。ITERで勤務する人々の多くは家族連れでフランスに移住をすることになり、しばしば問題となるのが子どもたちの教育ですが、フランス政府は ITER を誘致する際に、南フランスに国際学校を設立することを約束しました。その結果、フランス国民教育省管轄の公立学校として設立されたのがこの国際学校です。ITER関係者の子弟だけでなく地元の子どもたちにも開放しているため、地元のフランス人も多く通っています。幼稚園から高校までの一貫校で、学生数は約1,000人、60か国以上の国籍の子どもが在籍しており、授業料は基本的に無料だそうです。

ここで参加者たちはグループに分かれ、10年後の日本の小学校では、クラスの半数以上が外国にルーツをもつ子どもがあると仮定し、その学校で担任を受け持つとしたら、どのような教育を行うか？についてディスカッションを行い、各グループで話し合った内容について発表しました。

学校での服装について話し合ったグループは、制服を用意するが、着用するかは個々に任せる。宗教上着りたい服がある場合は認めるべき。また宗教によるお祈りの時間について、お祈りが必要な子どもには認める。但し、行事等でクラス全員がともに行動しなければならない場面では、お祈りはできない等、ルールを作ることも必要ではないかと述べました。

母語教育について話し合ったグループからは、週10

フランスにある ITER（イーター／国際熱核融合実験炉）に勤務されている木村 貴一さんをお迎えします。お子さんたちが通う国際学校で PTA 会長を務められたこともある木村さんより様々な国籍の生徒がいる中での教育システム、母国語教育等について、ワークショップ形式でご講演いただきます。\*授業は日本語で行われます。

### あなたならどうする？ みんなで考えよう！

以下のことを想定して、グループで話し合います。

あなたは10年後、香川大学附属高松小学校の教員として働いています。国際化が進み外国にルーツを持つ教職員、研究者、企業労働者が多く暮らしています。あなたが担任するクラスは、生徒30人のうち15人が外国にルーツを持つ子どもです。主たる言語は日本語です。一方で、それぞれの母語教育にも時間を配分しなくてはなりません。

- ・1週間の時間割は？ 食事は？
- ・母語教育の日数は？誰が教える？
- ・学校での服装（制服？私服？）
- ・学校行事（遠足、運動会、学習発表会）
- ・宗教でお祈りなどの時間は必要？
- ・親と学校との関わり（PTA活動など）
- ・外国語教育に選ぶ言語は？





時間程度を外国語教育とし、英語の時間と個々に分かれて母語もしくは第二言語を学ぶ時間を設ける。母語教育を行うのはネイティブ教員とするのが望ましいという意見もありました。

さまざまな意見が発表された後、木村さんより PACA マノスク国際学校では、実際にどのような教育を行っているのかお話しいただきました。

公立学校であることから、共通語はフランス語ですが、加えて日本語、イタリア語、ドイツ語、中国語、スペイン語、英語で実施される授業が選択できます。具体的にいうと、幼稚園年少はすべてフランス語で教育を行いますが、年中～小5まで週4日のうち2日はフランス語、2日は母国語で授業を実施します。中高になると、ヨーロッパコース (European Section) と国際コース (International Section) に分かれ、前者はほぼ英語で、後者は7割がフランス語、3割が母国語での授業を行っています。

フランスの小学校は週休3日制なので、日本語セッションでは、週のうち月、木が低学年の複々式クラス (3学年合同)、火、金は高学年の複式クラス (2学年合同) での授業を行っています。日本語セッションの授業がない日はフランス語の授業に出席します。日本語の授業は、日本の学習指導要領に沿って進められ、フランス語の授業はフランスの教育カリキュラムに従います。(他言語セッションも同様の仕組み)

中学高校になると、授業の7割以上はフランス語になります。「歴史地理」「文学」の2科目のみ日本語で学びますが、日本の学習指導要領に沿ったものではなく、フランスの教育カリキュラムに沿って日本語で学びます。フランスにはバカロレア試験が高校3年にあり、中等教育課程を修了したことの証明と、大学への進学資格を得るためには、この試験に合格しなければなりません。(他言語セッションも同様の仕組み)



学生との質疑応答で、「特別支援が必要な子どもへの対応は？」との質問には、支援が必要な子どもをサポートする教師が同席し、特別支援クラスと分けることなく全員が一つのクラスで一緒に授業を行っているという説明されました。「学校から家庭への連絡手段は？」との問いには、基本的にはプリントを使うが、日々の宿題や持ち物の連絡は、アプリを使っているとのことでした。

最後に学生間で活発にディスカッションされていた宗教への配慮について、フランスの公立学校では宗教は一切禁止されていると補足されました。宗教的な服装やシンボルの着用は禁止されており、規則に従わない生徒が退学処分になったこともあるそうです。多くの学生が個々の宗教については、配慮が必要であるとの意見であったため、この規則について驚いた様子でした。

次回のイベント：10月31日 (火) 留学報告イベント (アメリカ・ブルネイ編)